

平成26年度第1回荒尾市民病院あり方検討会議事要旨

◇日 時：平成26年5月14日（水）14時から15時45分まで

◇場 所：荒尾市役所 2階 市長公室

◇出席者：

【検討会委員】・・・6名

小野友道氏（熊本保健科学大学学長）、阪口峻一氏（荒尾市医師会会長）、鴻江圭子氏（市民代表）、坂井誠子氏（荒尾市社会福祉協議会会長）、下條寛二氏（株式会社 近代経営研究所 専務取締役）、林田由美氏（有明保健所所長）

※立石和裕氏（立石公認会計士事務所代表）、福島和代氏（九州看護福祉大学教授）は欠席

【荒尾市】・・・9名

山崎副市長、浅田総務部長、小川保健福祉部長、石川政策企画課長、片山総務課長、松尾病院建替準備室長、岩下財政係長、中川財政課副主任、宮本政策企画課主事

【荒尾市民病院】・・・8名

大嶋病院事業管理者、荒牧副院長兼事務部長、西村看護部長、中野経営企画課長、野村総務課長、前田医事課長、塩塚経営企画課長補佐、西山参事

【システム環境研究所】・・・2名

佐藤福岡事務所長、小塩チーフコンサルタント

以上、出席者計 25名

1. 開会

石川政策企画課長が開会を宣言した。

2. 会長あいさつ

前回の検討会では、市民病院を取り巻く環境の各種調査・分析結果について、事務局からの報告を受け、新病院の建設基本構想に関して、委員各位から意見をいただいた。

また、新病院の建設地に関する事項としては、現地建替えの検証結果を踏まえて、現地建替えが困難であるという方向性を結論付けた。

本日は、「どこに」「いくらで」新病院を建設するのかという大きな要素が検討事項である。それから、前回の検討会における意見を踏まえて、基本理念や基本方針をまとめた基本構想の素案を事務局に用意してもらっているので、新病院の将来像についての総仕上げという意味で、この素案に対する意見をいただきたいと思う。

いよいよ正念場を迎え、限られた時間ではあるが、委員各位からは、活発なご意見をいただきたい。

3. 議事

（1）新病院の建設地について

宮本政策企画課主事から、資料1に基づき、現地建替えの検証結果が説明され、「病棟を壊しては建てるという段階的な施工方法とならざるを得ず、複数の病棟に分かれた施設になるなど、効率的な施設配置が制限されるとともに、工期が長くなり、建設費が

嵩むこと」や、「長期間に及ぶ振動や騒音などにより、患者の療養環境やスタッフの労働環境が悪化することや、患者の減少にもつながり、建設期間中の病院経営を圧迫すること」などから、現地建替えは困難であり、移転が望ましいという方向性が改めて確認された。

また、宮本主事から、移転候補地の抽出の視点や各候補地の概況が説明され、続けて、小塩システム環境研究所チーフコンサルタントから、各候補地の評価について説明された。

移転先は、様々な視点から総合的に比較検討した結果、特に、病院を中心とした、住まい・介護・健康づくりなどが一体となった拠点づくりができることなどから、「荒尾競馬場跡地」を選定することが確認された。

(主な意見)

- 移転先については、荒尾競馬場跡地になるだろうと考えていた。今後、大きな展開を図ろうと考えれば、広い土地が必要で、荒尾競馬場跡地しかないと考えていた。

- 荒尾競馬場跡地は臨海部で景観も良いので、どんな施設ができてよい。荒尾市は、活断層もないと聞いているし、歴史的にも地震の少ない地域であり、また、内海で津波もさほど心配ないと思うが、海沿いであることの懸念点は払しょくしていく必要がある。その他の候補地については、野外音楽堂は周辺施設が過密な状況で、土地の高低差もある。大和団地も居住者の転居を考えると早期建設は難しいだろう。また、聖人原は、旧市街化区域の東端で、発展性という意味では、これまでも、あまり変化がない土地であるし、交通も利便性が良いとは言えない。

→高潮による浸水対策として、排水向上のための盛土工事のほか、県の高潮対策の基準に準拠した補強工事や、堤防のかさ上げを行っており、影響が大きい雲仙断層による最大想定震度6による津波高0.5mでは影響は全くないと考える。

- 自然災害は想定外の事態にも備える必要がある。特に、医療機関や介護福祉施設においては、高齢者などの弱者対策として、海側を避ける傾向がある。安心できる対策を行ってほしい。

市の中心部に近い方が良いのではないかとも思ったが、土地の広さや平地であることなどをはじめ、様々な要素を総合的に比較すると、移転先は競馬場跡地が一番良いとの選択は理解できる。

- 市内における位置的な偏りが少し気になる。本来、建設地は現地周辺が望ましいと思われるが、他の要素から消去法的に選択すると競馬場跡地しかないものと理解する。

ただし、海に近いということで、自然災害や塩害の問題は気になる。潮の影響で、施設が傷みやすくなるのではないかと懸念する。

救急搬送の利便性の問題は、有明海沿岸道路の整備などで向上するものと思われる。

荒尾市のまちづくりの観点から、新病院を荒尾競馬場跡地に建設し、跡地をどのようなまちにしていけるのかを楽しみにしている。

→塩害については、直接的な影響はあまりないと考えており、全国的にみても海沿いの病院など公共的な施設は多く、海沿いの街並みも多く存在している。設計上は一定の配慮が必要かもしれないが、その際の工夫などで対応していきたいと考えている。

- 設計段階に入る前には、千葉県の亀田総合病院など、海に面している医療機関の事例研究を行ってみてはどうか。
- 市が競馬場跡地に残っているスタンド施設や厩舎団地の調査をしていると思うが、他の地域の建物と比べて、特に劣化が激しいというような印象はない。また、市内の海に面した地域の住宅や自動車の劣化が早いということもないので、大きな影響はないのではないかと。
- 災害の問題に関して、液状化が心配だ。
災害拠点病院を目指す上では、交通のアプローチも重要であるが、その点、有明海沿岸道路の整備が進めば強みになる。また、大災害時に対応できる広い土地がある点も評価できるので、災害に強いということ売りにはできるのではないと思う。また、広い土地を活かしたまちづくりができるので、人が集まる地域にできると思う。
- 以前は都心地区として栄えた荒尾駅周辺だが、現在は寂れてしまっているので、この地域の活性化の起爆剤にもなるという点でも大きな効果があると思う。
また、災害拠点病院を目指す上で有利なのは、有明海沿岸道路により、幅広い範囲を広域的に対応できることだろう。超大規模災害時、ウォーターフロントで、重要港湾である三池港もある。高規格道路や駅と病院はファンクショナルにも近接していることで効果を大きくできると考える。
- 場所が決まれば、インフラなどの機能は自然と後から付いてくるものと思うが、土地が広くなければ機能しないので、土地の広さは魅力である。
- 臨海部における液状化については、埋め立てて期間が間もない、また、地質が砂地の地域で起こると言われているが、荒尾競馬場跡地は、江戸時代、西暦 1856 年に干拓事業によって完成した土地である。
また、地質については、簡易なボーリング調査を行っており、地層の硬さを示す N 値は、中高層建築物の基礎の支持層となる 30～50 という値が地面から 10m 程で示され、浅いところに支持層があることが分かっている。加えて、粘土質であるという調査結果も出ているので、仮に地震があっても、東京湾沿岸のような状況にはならないものと考えている。
- 10m で支持層に当たるとするのは、かなり浅い部類に入る。

- 塩害について、改修工事により堤防が 1m 以上高くなったことや、例えば緑地帯を整備することなどにより対応できることを説明していきたいと考えている。
- 長洲町からの交通の利便性も高まるだろう。
病院を中心としたまちづくり、高齢者が 1 日過ごせるようなまちづくりをしてほしい。
病院側から何か意見はないか。
- 災害拠点病院を目指す当院としては、市民の津波や液状化に対する不安をクリアにしていかなければならない。津波については、南海トラフ巨大地震の被害想定でも 30～50cm 程度ということで、特段問題はないものと思われる。
- 救急搬送の点で、救急自動車が踏切を通る必要があるので、市の東部からのアクセス性を高める道路整備を行ってほしい。
- 検討会として、「現地建替では、診療を継続しながら、収益を落とさずに建設を行うことが難しいため移転とすること」、また、今後、市には、災害対策や救急搬送の不安を払しょくする努力をしてほしいという要望はあるが、荒尾競馬場跡地を建設地に選定するということでよろしいか。

異議なしの声

(2) 概算事業費について

小塩チーフコンサルタントから、資料 2 に基づき、新病院建設に係る概算事業費が説明され、続けて、松尾病院建替準備室長から、追加資料 1 に基づき、新病院建設事業費が病院経営に与える影響について説明された。

概算事業費については、概ね妥当であることが確認され、併せて、市民病院は現時点から収益の増加に向けた努力を行い、また、行政は、市民に向けて病院の必要性を丁寧に説明しながら、新病院建設に対する市民の理解や後押しを得ていく必要があることが確認された。

(主な意見)

- 建設後の資金収支をプラスにする経営努力を行っていく必要がある。
- 近年の公的病院の事例と比較しても事業費は概ね妥当だろう。具体的な収支計画の策定と市からの繰入金が重要になってくる。収支計画の策定と並行して、市は病院事業への繰入額の検討を行う必要があると思う。
- 新病院建設後、苦しい経営に陥っている事例もある。建設後にどうなるかという事例研究やシミュレーションを行い、建設後に経営に苦しむようなことのないように準備が必要であると思う。

- 新病院の建設前から、建設に備えて病院事業に繰り入れを行い、積み立てている自治体もある。
- 新病院開院後、最も経営が苦しくなるのは、医療機器整備費の償還が大きい開院 2 年目以降の 4 年間である。この期間、市が総務省の定める繰出基準の範囲内で支援すれば経営は耐えられる。現在、公立病院特例債の償還のため、年間 2 億円を病院事業に繰り出しているが、平成 27 年度までで償還が終わるため、市としても、その 4 年間で何とか支援することができるのではないかと考えている。
- 地方公営企業会計制度の見直しに伴う退職給付引当金の計上は終わったのか。
→平成 26 年度に一括して特別損失に計上する。資金収支上は全く影響がないが、収益的収支上、見かけの赤字が発生する。
- 建設費の高騰や消費税率の引き上げなど、厳しい時期ではある。収益を増加するには大変な努力が必要であると思う。
- 増益ということが条件であるが、新病院になれば、効率化や新規患者の増加などにより、さらに上を目指すことが可能なので、院長を中心に努力を続けてほしい。
- 新病院の開院時期は、できるだけ早い方が良い。早くアメニティを整えることは、患者だけでなく、医師や看護師などのスタッフを集めるという点においても、競争力を高められる。
- 概算事業費については、平均的な範囲に収まっているようだ。市は病院を建て替えるという覚悟を示し、病院の背中を押してほしい。もちろん、病院もこれまで以上に努力を重ねていく必要がある。
何よりも、市民に「荒尾市民病院は必要で、建て替える必要がある」というコンセンサスを得ていく努力を行っていく必要がある。
- 市民の応援がなければ、市から病院への繰出金についても理解が得られないだろう。病院は、患者に対する接遇の更なる改善やボランティアに参加しやすい仕組みづくりなど、敷居の低いイメージづくりを積極的に行うことで市民の後押しを得られるものと思う。

(3) 基本構想(素案)について

小塩チーフコンサルタントから、資料 3-2 に基づき、前回の検討会における意見の反映状況について説明され、続けて、荒牧市民病院事務部長から、資料 3-1 に基づき、新病院の基本理念や基本方針、5 疾病 5 事業等への対応方針、病床数についての説明が行われ、異議なく承認された。

また、宮本主事から、欠席の福島委員からは概ね基本構想素案を了承する旨の連絡が

あったことや、開院までのスケジュールについて説明が行われた。スケジュールについては、基本構想素案に盛り込むことが提案され、異議なく承認された。

(主な意見)

- 患者は接遇などソフト面を重視するので、丁寧に取り組みなどを周知することで、事業費についても市民からの理解が得られるものと思う。他の医療機関や介護・福祉施設との連携について、患者の流れだけではなく、具体的に情報の共有は行っているか。
→有明地域医療ネットワーク会議を年に3回開催し、介護や福祉関係者との情報交換も行っている。
- 例えばホテルなどでも、開業に向けて建て替えた後、数か月間の訓練を行っている。新病院の開院までの様々な取り組みを公開することで、新病院に対する市民の機運も高まるのではないかと。
- 新病院開院までのスケジュールについては、今後検討を重ねて、できるだけ早期に開院したいと考えている。
- スケジュールを短縮するためにも、事業収支計画を早期に立てて、市と連携しながら進めた方がよい。
- 建設期間などは短縮することができると思われるが、市民の理解を得るためには、丁寧に説明していく必要があると考えており、時間がかかることもあると思うが御理解いただきたい。
- 市民の理解を得る上で、市議会からもバックアップを受けられるよう、市議会には根拠となる客観的な数値などを用いて丁寧に説明をする必要があるだろう。

4. その他

石川政策企画課長から、今後の予定として、6月中に市議会への説明を行い、了承が得られれば、基本構想素案をパブリックコメントに付すことが説明された。次回の会議では、パブリックコメントにおける市民からの意見を踏まえた基本構想案などについて検討することが確認された。

なお、パブリックコメントに付す基本構想素案の細かい語句や体裁の修正については、会長に一任することが提案され、異議なく承認された。

また、荒尾市医師会の役員改選に伴い、今回の会議をもって、阪口副会長が検討会委員を退任されることが報告された。

阪口副会長 これまで2年間、小野会長の下、言いたいことを言わせてもらった。色々と重要なことが決まる期間に委員を務めることができて光栄に

思う。小野会長をはじめとした検討会の委員各位と市と病院とが、悩みながら一つのものを作ろうとしているということを感じた。市民病院が黒字になって、このステップに踏み込むことができたわけであり、苦労もあると思うが、愛する市民病院にはこれからも頑張ってください、新病院の建物にふさわしい中身を全員一丸となって作り上げていただきたい。

5. 閉会

小野会長が15時45分に荒尾市民病院あり方検討会の閉会を宣した。

以上